



国立大学法人 福岡教育大学

不登校および学習的適応感の低い生徒の 自己有能感を高める研究

～タブレット学習による個別の学習支援を通して～

福岡教育大学教職大学院では、現職教員の長期研修を行っています。飯塚市の中学校教員である渡部禎之氏は、納富恵子教授の指導を受け、市内の中学校の協力を得ながら研究を進めています。飯塚市の不登校解消に向けた研究の一環として、eライブラリのダウンロード学習機能を使った、持ち帰り学習（タブレット学習）の結果をご紹介します。

研究の対象と目的

飯塚市の不登校の大きな要因のひとつが学業の不振である。そこで、飯塚市内A中学校2年生で、学校環境適応感尺度「アセス」の学習的適応感の低い生徒8名（以下「生徒」）を抽出した。自己有能感を向上させるための手立てとして、家庭でのタブレット学習の有効性を検証する。

eライブラリのダウンロード学習機能を使った実証

実証方法 期間：平成X年10月5日から平成X年10月26日

タブレット学習の進め方 ※中間考査後に運用開始

①事前準備

- 中間考査の復習や期末考査に向けての予習、苦手な教科の復習ができる学習単元を生徒に選択させた。
- 保護者説明会を開き、家庭での学習について前向きな声掛けを依頼した。

②実施

- 生徒が選択した学習単元をダウンロードしたタブレットを貸し出す。
- 生徒はタブレットで学習した内容を自学ノートに記入し、毎日学校に提出する。
- 教師が自学ノートにコメントを記入し、頑張りを評価する。
- 研究者が毎週木曜日にタブレットを回収し、学習記録をアップロードする。「学習時間」「利用回数」「単元」「正解率」などの結果を個別にプリントアウトし、コメントを書き入れ、口頭で評価をしながら生徒に渡す。



▲ 教材ダウンロード画面



▲ eライブラリのドリル画面

1. 自己有能感の変容

学業に関する自己有能感（コンピテンス）の測定値が上昇した。

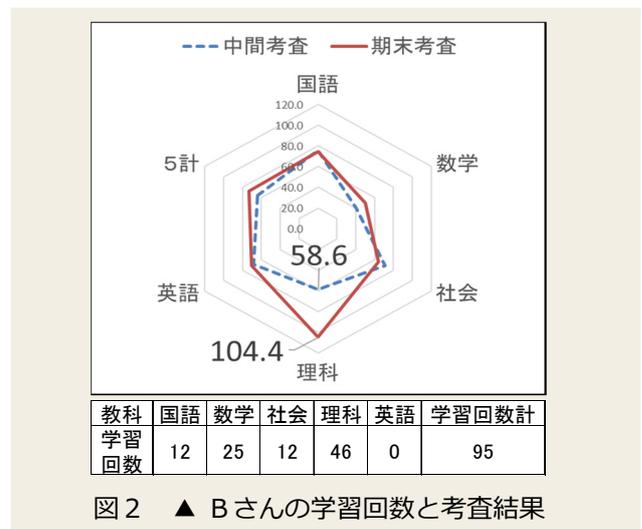
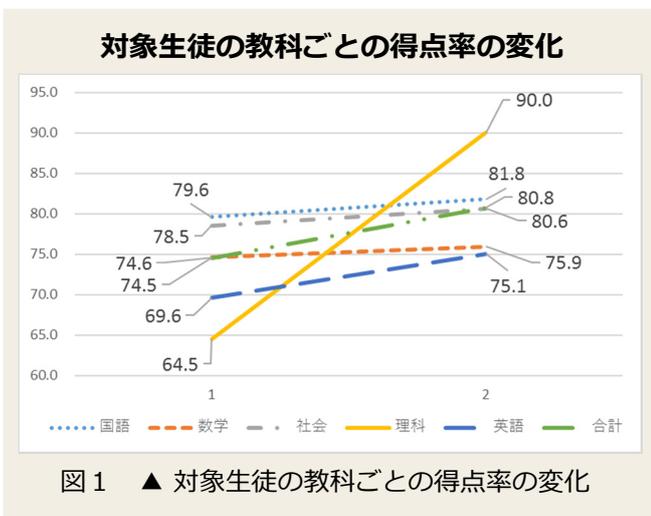
※自己有能感(コンピテンス)とは「環境に対して能動的に働きかけ、適応する能力」のことです。質問紙によって学業、友人関係、スポーツ、スタイル、行動、自己価値の因子ごとに測定することができます。

2. 学力の変容（全体）

中間考査と期末考査の結果を比較し、学習効果を検証した。各教科で平均点が異なり、同一教科であっても中間考査と期末考査で平均点が異なるため、平均点に対する得点率を比較した。その結果、5教科すべてで得点率が上昇した。特に、理科の得点率は64.5から90.0と、他教科に比べ大幅に上昇した。（図1）

3. 学力の変容（個人）

特定の教科の得点率が最も顕著に上昇したのがBさんであった。学習ログを分析した結果、Bさんは理科の学習回数数が最も多かった。理科の得点率が58.6から104.4に上昇し、学習効果が表れたと考える。（図2）



タブレット学習後のアンケートの結果

※対象：8名の生徒（男子6名、女子2名）と保護者

4件法による回答

「当てはまる」「少し当てはまる」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の4件法で回答を求め、4点から1点に点数化し、平均値を求めた。各質問の平均値は以下の通り。

- (1) タブレット学習に積極的な気持ちで取り組んだ。 【3.5点／4点】
- (2) タブレット学習を楽しむことができた。 【3.4点／4点】
- (3) 勉強に自信をもてるようになった。 【2.6点／4点】
- (4) よくわかるようになった教科がある。 【3.4点／4点】

自由記述欄による回答

【生徒の回答】

- タブレット学習を通して、わからなかった問題がわかるようになったのでよかった。
- この3週間の学習を振り返って、タブレット学習ですごく復習ができたと思いました。
- 間違ったところやわからなかったところを解説やヒントを見て考えて解くことができた。
- 英語の先生から「英語の単語がよくわかるようになったね」と言われてうれしかった。

【保護者の回答】

- 自分から進んで机に向かう姿を見られたのでよかった。
- また機会があれば参加したい。
- 3週間でタブレットを返却するとき、寂しそうだった。もっとやりたいと言っていた。
- タブレット学習をするようになって、宿題に取りかかる時間が早くなった。

考察

以上のことから、学習的適応感の低い生徒がタブレット学習を行うことで、学業に関する自己有能感の向上につながる可能性が示された。また、5教科の得点率が上昇したことから、考査に向けた学習を行う手段として一定の効果があったと考えられる。さらに、事後アンケートから、意欲的にタブレット学習に取り組んでいたことがわかった。

本研究は、平成30年7月27日、28日に東京成徳大学で行われた「第20回 日本学校心理学会大会」においてポスター発表された内容の一部です。

インタビュー 総合考察と今後の予定

現在、全国の様々な自治体で、ICTを活用した不登校生徒に対する学習支援が行われています。小学校1年生の内容から復習ができるeライブラリは、生徒一人ひとりの状況に応じた学習ができるという点で大きな魅力を感じました。

今回の通信で記事にして頂いた内容は、昨年度の研究の一部です。昨年度、適応指導教室やフリースクールにもご協力を頂き、すでに不登校になった生徒に対してもタブレット学習を行いました。アンケートの結果から、タブレット学習を行うことで、復習できる喜びを感じたり、意欲的に学習に取り組んだりしたことがわかりました。

それらのことも踏まえると、タブレット学習は考査の得点率の上昇だけでなく、生徒の心理面の前向きな変化につながると考えています。

今後、タブレット学習だけでなく、個別の支援計画等を参考にしながら不登校解消に向けた研究を進めていきたいと考えています。



渡部 禎之 氏

※ 本記事は、福岡教育大学教職大学院の院生渡部禎之氏の研究報告とインタビューの内容、納富恵子教授からの指導助言を参考に作成しています。

参考資料 渡部禎之・納富恵子(2018) 不登校および学習的適応感の低い生徒の自己有能感を高める研究 -タブレット学習による個別の学習支援を通して- ISPA(国際学校心理学会) 2018 Tokyo日本語プログラム プログラム・発表抄録集

【本研究に関するお問い合わせ先】

福岡教育大学教職大学院 納富恵子研究室

電話：0940-72-6019 (研究室)

：0940-72-6013 (事務室)

ホームページ：<http://www.notomikeiko.com/> (納富恵子研究室)

：<https://www.fukuoka-edu.ac.jp/> (福岡教育大学)